

岡村中学校だより

「昨日の自分よりも成長する」

校長 栗田 智則

全校生徒数722名で新年度がスタートしてから早一か月が過ぎようとしています。街中では、ツツジの花が色鮮やかに咲き、季節は早くも初夏の気配となりつつあります。この度、高橋浩二校長先生の後を引き継ぎ、校長として着任をいたしました栗田智則です。この横浜屈指の伝統校である岡村中学校に赴任して身の引き締まる思いです。生徒一人ひとりを大切にしたい、笑顔あふれる温かみのある学校づくりを、信頼する全教職員とともに尽力してまいります。保護者・地域の皆さまには本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



気持ちの良いあいさつをしてくれる岡中生。運動部の春の大会が始まり、時間が許す限り応援に行かせてもらって、生徒たちの懸命にプレーする姿・応援する姿を観て多くの感動をもらっています。どの大会でも、勝ち続けて終わるチームや学校は優勝をしたところだけです。それ以外は、すべて敗退で終わります。敗退から何を感じ、何を学び、次にどのように生かしていくかが重要になります。上手くいくときもあれば、いかないときもある。勝てるときもあれば、負けるときもある。夏の大会に向けて、さらなる進化を期待しています。

1学期の始業式では、次のような話をしました。『一年間のスタートにあたり、漫画や映画で知られる「ドラえもん」の話をします。「ドラえもん」の連載が始まったのは1969年、今から50年以上前といます。一番初めに登場した道具は「タイムマシン」だったと記憶しています。「タイムマシン」この時空を旅できる道具があったら、人々の生き方はどう変わるか。その後に出てくるタケコプターやテキオー灯などに、子ども心にわくわくして未来に夢を与えてくれたと思います。ドラえもんや、のび太くん、しずかちゃん、ジャイアン、スネ夫たちの繰り広げるストーリーを通して、次の5つを訴えかけているといます。

- ①「自分だめだ」と思い込まないこと ②「人にできて、君だけにできないことなんてない」
③「未来や現実、自分の行動で変わる」 ④「失敗しても、やり直せる」

⑤「友情と平和の尊さ」 / 哲学者の小川仁志氏は「ドラえもんで哲学する」という著書の中で、結局は「今を生きることの大切さを知る」ことが重要と、記していました。生徒の皆さんには、ぜひ「今を大切に」「他人と自分を比較して、一喜一憂するよりも、どうせ比べるなら昨日の自分と今日の自分を比べて、少しでも成長しよう」としてほしいと思います。時には、思うようにうまくいかなかったり、悩んだりすることもあるかもしれませんが。そんな時は一人で悩まず、ぜひ先生方に相談してください。身近にいる大人や先輩は、皆さんのよき相談役となるはず。一緒に考え、乗り越えていく力もつけていきましょう。

できなかったことで自信を無くしたり悔やんだりするよりも、『今から』できること・できそうなことを自ら発見して、新たな取組・挑戦を開始し、ひとつでも「本気」で取り組めるものがあるならば、それは本当に素晴らしいことだと思えます。応援しているぞ！岡中生！